

# NEWS RELEASE

キヤノン株式会社  
キヤノンマーケティングジャパン株式会社

## 次世代の映像表現を追求したフルサイズミラーレスカメラ「EOS R5」を発売 約 4500 万画素・最高約 20 コマ/秒連写と世界初の 8K 動画撮影を実現

キヤノンは、新開発の有効画素数約 4500 万画素<sup>※1</sup> フルサイズ CMOS センサーと新映像エンジン「DIGIC X」、高性能な「RF レンズ」により、カメラの基本機能を総合的に進化させた「EOS R システム」の次世代フルサイズミラーレスカメラ「EOS R5」を 2020 年 7 月下旬に発売します。



EOS R5  
\* RF24-105mm F4 L IS USM 装着時

「EOS R5」は、新開発の CMOS センサーや新映像エンジン、「RF レンズ」により、EOS シリーズ史上最高の解像性能<sup>※2</sup>を実現するなど、新たな映像表現を追求したミラーレスカメラです。世界初<sup>※3</sup>の 8K/30P 動画撮影<sup>※4</sup>やレンズ側の光学式手ブレ補正と協調した世界最高<sup>※5</sup>8.0 段<sup>※5</sup>の手ブレ補正を実現し、静止画・動画ともに本格的な作品づくりを行うプロやハイアマチュアユーザーのニーズに応えます。

### ■ 約 4500 万画素と最高約 20 コマ/秒の高速連写を両立

新開発のフルサイズ CMOS センサーと新映像エンジン「DIGIC X」により、EOS シリーズ史上最高の解像性能を実現しています。さらに、電子シャッターによる撮影時は最高約 20 コマ/秒、メカシャッター/電子先幕による撮影時は最高約 12 コマ/秒の高速連写<sup>※6</sup>を実現しています。

### ■ 「デュアルピクセル CMOS AF II」による快適な AF 性能

新 CMOS センサーの高速信号読み出しと新映像エンジンの高速処理により、「デュアルピクセル CMOS AF II」として AF 性能が向上しています。測距エリアは、画面の最大約 100% (縦) × 約 100% (横) の範囲<sup>※7</sup>に拡大しています。また、静止画撮影時に AF フレームは、最大 1053 分割<sup>※8</sup>のエリアから自動選択されます。さらに、人物の瞳・顔・頭部に加えて、動物 (犬/猫/鳥) の瞳・顔・全身検出<sup>※9</sup>にも対応し、被写体の捕捉率を向上しています。

### ■ 世界初の 8K 動画撮影と世界最高 8.0 段の手ブレ補正による快適な撮影

世界に先駆けて 8K/30P 動画撮影機能を搭載しています。8K の豊富なデータ量を生かした高画質な 4K 動画を撮影することも可能です。また、ボディー内 5 軸手ブレ補正機構を EOS シリーズで初めて搭載しています。レンズ側の光学式手ブレ補正機構との協調制御による最大 8.0 段の手ブレ補正を実現し、望遠撮影や手持ち撮影といった手ブレの発生しやすい環境でも快適に撮影することができます。

| 製品名    | 希望小売価格 | 発売日          |
|--------|--------|--------------|
| EOS R5 | オープン価格 | 2020 年 7 月下旬 |

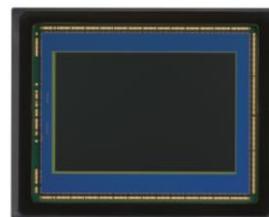
※1 総画素数約 4710 万画素。  
 ※2 ISO12233 準拠の CIPA 解像度チャートで確認。キヤノン調べ。  
 ※3 2020 年 7 月 8 日現在発売済みのレンズ交換式デジタルカメラにおいて。キヤノン調べ。手ブレ補正については、「EOS R6」も同じ。  
 ※4 8K (29.97fps/25.00fps)。クロップ「しない」のみ。8K 動画 (RAW/DCI/UHD) は、カメラ内部の温度上昇に伴う撮影時間の上限があり、撮影可能時間は最大約 20 分になります。(常温時)  
 ※5 CIPA 規格に準拠。「RF24-105mm F4 L IS USM」(2018 年 10 月発売)、焦点距離 105mm 時。レンズは、購入時期によりファームウェアの更新が必要。  
 ※6 動作条件は、2 ページ 1. の※1、※2 に記載。  
 ※7 動作条件は、2 ページ 2. の※1 に記載。  
 ※8 「顔+追尾優先 AF」かつ被写体非検出時。  
 ※9 被写体によっては動物検出できないことがあります。また、犬/猫/鳥以外の被写体に対して動物検出する場合があります。

● 一般の方のお問い合わせ先 : キヤノンお客様相談センター 050-555-90002  
 ● E O S ホ ム ペ ー ジ : canon.jp/eos

## <主な特長>

### 1. 約 4500 万画素と最高約 20 コマ/秒の高速連写を両立

- ・新開発の有効画素数約 4500 万画素フルサイズ CMOS センサーの高速信号読み出しと、新映像エンジン「DIGIC X」の高速処理、高性能な「RF レンズ」により、EOS シリーズ史上最高の解像性能を実現した高画質と高速連写を両立。
- ・電子シャッター撮影時は、AF/AE 追従で最高約 20 コマ/秒<sup>※1</sup>の高速連写を実現。野生動物との対峙やゴルフの試合会場などのシーンにおいてシャッター音を気にせず撮影が可能。
- ・メカシャッター/電子先幕撮影時は、最高約 12 コマ/秒<sup>※2</sup>の高速連写を実現。
- ・「DIGIC X」により、静止画撮影時に常用で最高 ISO51200（拡張 ISO：102400 相当）を実現。
- ・人間の視覚特性に基づく「HDR PQ」方式での静止画/動画記録に対応。RAW 現像ソフトウェアで行っていた HEIF（10bit）記録をカメラ内で実現。
- ・RAW 現像時のオートライティング最適化機能へ、新たに「顔ライティング補正」を追加。顔のコントラストが高いときに、自動的に顔の明るさを補正することが可能。
- ・レンズの収差などを補正する「デジタルレンズ最適化」に「強め」を追加。



新開発の CMOS センサー

- ※1 EF-S レンズ使用時を除く。絞り開放時。詳しくはキヤノン公式 HP をご参照ください。シャッタースピード、絞り、連続撮影中の絞りの状態、被写体条件、明るさ（暗所での撮影時など）、あるいはレンズの種類などによって連続撮影速度が変化します。
- ※2 「RF レンズ」及び一部の EF レンズ使用時。詳しくはキヤノン公式 HP をご参照ください。連続撮影速度は、バッテリーの種類/残量、バッテリーグリップ/WFT の使用有無・バッテリー数、DC カプラー/USB 電源アダプターの使用有無、使用レンズ、温度、内蔵 Wi-Fi の ON/OFF などにより、最大 3 段階に変化します。最高連続撮影速度は、前記要因の他に、シャッタースピード、絞り、ストロボ使用、フリッカー低減処理、被写体条件、明るさ（暗所での撮影時など）などにより低下することがあります。

### 2. 「デュアルピクセル CMOS AF II」による快適な AF 性能

- ・新 CMOS センサーの高速信号読み出しと新映像エンジンの高速処理により、「デュアルピクセル CMOS AF II」として AF 性能が向上。「顔+追尾優先 AF」設定時の測距エリアは、画面の最大約 100%（縦）×最大約 100%（横）の範囲へ拡大<sup>※1</sup>。さらに静止画撮影時には、AF フレームは、最大 1053 分割<sup>※2</sup>のエリアから自動で選択。
- ・人物の瞳・顔・頭部検出に対応。「EOS R」（2018 年 10 月発売）と比較して、より小さな瞳や横顔の検出性能が向上。さらに、動物（犬/猫/鳥）の瞳・顔・全身検出に対応し、被写体の捕捉率を向上。
- ・EV-6 の低輝度合焦限界<sup>※3</sup>を達成。肉眼では被写体の視認が難しい暗い環境下でも高精度なピント合わせを実現。
- ・「デュアルピクセル CMOS AF II」と「RF レンズ」の駆動制御の最適化により、最高約 0.05 秒<sup>※4</sup>の高速 AF を実現。
- ・「EOS-1D X Mark III」（2020 年 2 月発売）に搭載した AF アルゴリズムを採用。シーンに合わせて「被写体追従特性」「速度変化に対する追従性」があらかじめ初期設定された「Case1~4」と、被写体に合わせて自動で設定が切り替わる「Case A（Auto）」により快適な撮影を実現。



鳥の瞳検出



犬の顔検出



猫の全身検出

- ※1 「顔+追尾優先 AF」、かつ、「RF レンズ」（「RF600mm F11 IS STM」/「RF800mm F11 IS STM」および「エクステンダー RF1.4×」/「エクステンダー RF2×」を除く）、EF レンズ（一部を除く現行製品）、エクステンダー EF（III）使用時（マスターレンズのモードに準じる）に被写体枠が表示された場合。シーンや被写体の状況によって対応できない場合があります。対象レンズはキヤノン公式ホームページをご参照ください。
- ※2 「顔+追尾優先 AF」かつ被写体非検出時。
- ※3 キヤノン試験基準による。静止画撮影時・F1.2 レンズ使用時・中央測距点・ワンショット AF・常温・ISO100・Defocus Smoothing コーティングを採用した「RF レンズ」を除く。
- ※4 CIPA ガイドラインに準拠して測定した AF 時間の結果から算出。（撮影条件や使用レンズにより異なる）内部測定方法。[測定条件] 測距輝度：EV12（常温・ISO100）、撮影モード：M、「RF24-105mm F4 L IS USM」使用、焦点距離 24mm 位置、シャッターボタン操作によるライブビュー撮影時、AF 方式：1 点 AF（中央）、AF 動作：ワンショット AF 時。

### 3. 世界初の 8K 動画撮影など先進の映像表現を実現

- ・ CMOS センサーの高速信号読み出しと、新映像エンジン「DIGIC X」の高速処理により、世界初の 8K/30P 動画の内部記録を実現。8K で RAW データ (12bit) による動画の内部記録にも対応。
- ・ 4K/120P ハイフレームレート動画<sup>※1</sup> の撮影を実現し、滑らかな映像を撮影することが可能。
- ・ 8K の豊富なデータから、高画質な 4K 動画を生成可能。クロップ (切り出し) なしのオーバーサンプリング<sup>※2</sup> による 4K/30P 動画<sup>※3</sup> を実現。
- ・ 8K/4K/フル HD 撮影において、「デュアルピクセル CMOS AF II」による滑らかな AF を実現。
- ・ キヤノン独自の Log ガンマ「Canon Log」を生かした階調豊かな映像表現が可能。

※1 4K DCI/UHD。 (119.88fps/100.00fps)

※2 記録画素よりも大きなデータから、記録映像を生成する手法。

※3 4K DCI/UHD。 (29.97fps/25.00fps)

### 4. 世界最高 8.0 段の手ブレ補正による快適な撮影

- ・ EOS シリーズで初めて、手ブレに連動して撮像素子を動かす補正機構をボディ内に採用。水平回転軸/縦回転軸/回転軸/左右/上下の 5 軸でのボディ内手ブレ補正を実現。手ブレ補正機構が搭載されていないレンズでも、カメラとレンズの組み合わせに応じて広角から望遠まで快適な撮影が可能。
- ・ レンズ側の光学式手ブレ補正機構と、ボディ内の手ブレ補正機構の協調制御<sup>※1</sup> により、世界最高 8.0 段の手ブレ補正を実現。望遠撮影や手持ち撮影といった手ブレの発生しやすい撮影環境でも快適な撮影が可能。動画撮影時には、ボディ内とレンズ内の手ブレ補正機構の協調制御に加え、動画電子 IS<sup>※2</sup> の併用も可能。

※1 「RF600mm F11 IS STM」/「RF800mm F11 IS STM」は非対応。「EOS R5」/「EOS R6」より前に発売された「RF レンズ」で協調補正を行うには、レンズのファームアップが必要な場合があります。

※2 動画電子 IS 使用時は撮影範囲が狭くなります。

### 5. プロやハイアマチュアユーザーに求められる通信性能や操作性の追求

- ・ スマホなどの携帯端末への Wi-Fi/Bluetooth®による接続に対応<sup>※1</sup>。EOS シリーズで初めて、カメラ内蔵の Wi-Fi として 5GHz 帯の無線 LAN 規格に対応し、高速で安定した通信が可能。
- ・ FTP、FTPS に加え、ワイヤレスファイルトランスミッター「WFT-R10B」(別売り) 使用時は SFTP<sup>※2</sup>での転送が可能となり、新しい認証・暗号化通信技術に対応した安全性に優れた通信を実現。
- ・ カメラから「image.canon」への画像自動転送機能を搭載<sup>※3</sup>。「image.canon」を経由して、「Google Photos<sup>※4</sup>」や「Adobe Creative Cloud」(メンバーシッププラン)へ静止画を自動転送可能。
- ・ シャッター耐久 50 万回を達成したシャッターユニットを搭載。電源オフ時のシャッター幕の開閉を選択可能。
- ・ 防じん・防滴構造<sup>※5</sup>を採用し、水滴や砂じんのカメラ内部への侵入を抑制。さらに、堅牢(けんろう)性と軽量化を両立する高剛性のマグネシウム合金製ボディにより、高い信頼性を確保。
- ・ 約 576 万ドットの有機 EL パネルを採用した視野率約 100% の高精細な電子ビューファインダー (EVF) を内蔵。表示フレームレートを「119.88fps (なめらかさ優先)」に設定することで、動体の追いかげやすさが向上。
- ・ CFexpress カード (Type B) と SD メモリーカード (UHS-II 対応) のデュアルスロットを搭載。
- ・ 直感的な AF フレーム選択操作が可能なマルチコントローラーを搭載。

※1 Bluetooth Low Energy 技術に対応。以降の表記においては Bluetooth と記載。Bluetooth 機能の動作条件は、接続機器が iOS/Android™:Bluetooth 4.0 以上を搭載するデバイスです。ただし、上記の動作条件を満たす機器であっても、機種によっては、Bluetooth 接続ができないものがあります。Bluetooth 接続ができない場合でも、機器と Wi-Fi 接続による画像の転送、リモート操作は可能です。なお、Bluetooth 接続には、事前にカメラと携帯端末をペアリングしておく必要があります。カメラと携帯端末の Wi-Fi や Bluetooth での接続には、キヤノン専用アプリケーション「Camera Connect」のインストールが必要。

※2 内蔵 Wi-Fi は SFTP に非対応。

※3 自動転送には、事前登録した Wi-Fi アクセスポイントに接続していることが必要。

※4 クラウドストレージサービス「Google One」(メンバーシッププラン)を介した「Google Photos」との連携。

※5 防じん・防滴性能を発揮させるため、電池室やカードスロットカバー、端子カバーなどの開閉部をしっかりと閉じる必要があります。カメラは防じん・防滴に配慮した構造になっていますが、砂じんや水滴などの侵入を完全に防ぐことはできません。

## < “EOS R5” 専用アクセサリ >

### ■ ワイヤレスファイルトランスミッター “WFT-R10B” (別売り)

- ・縦位置バッテリーグリップ機能を備えた、“EOS R5” 専用のワイヤレスファイルトランスミッター。2.4GHz 帯と 5GHz 帯の無線 LAN 規格に対応。
- ・IEEE (米国電気電子学会) が定める 5GHz 帯の高速通信規格「IEEE 802.11ac」や「IEEE 802.11n」は、2x2 MIMO<sup>※</sup>にも対応し、カメラが内蔵する Wi-Fi を超える高速通信を実現。

※ Multiple Input and Multiple Output の略。複数のアンテナを搭載することで通信品質を向上させる技術。



ワイヤレスファイルトランスミッター “WFT-R10B”



“EOS R5” 装着時

## < “EOS R5” および「EOS R6」共通アクセサリ >

### ■ バッテリーグリップ “BG-R10” (別売り)

- ・“EOS R5” や「EOS R6」に装着することで、縦位置撮影時の操作性が向上。バッテリー<sup>※</sup> (「LP-E6NH」、 「LP-E6N」 または 「LP-E6」) 2 本を装填することにより、撮影枚数を増やすことが可能。

※ バッテリーパックは、バッテリーグリップ “BG-R10” に同梱されていません。



バッテリーグリップ “BG-R10”



“EOS R5” 装着時

### ■ バッテリーパック “LP-E6NH” (同梱)

- ・「LP-E6N」の後継バッテリー。「LP-E6N」と比較して容量が約 14% 増加。

| 製品名      | 希望小売価格 (税別)  | 発売日          |
|----------|--------------|--------------|
| WFT-R10B | 11 万 8,000 円 | 2020 年 7 月下旬 |
| BG-R10   | 3 万 3,000 円  | 2020 年 7 月下旬 |
| LP-E6NH  | 1 万 1,000 円  | 2020 年 7 月下旬 |

### <商品構成（キット内容）>

| 名称         | 内容     |
|------------|--------|
| EOS R5・ボディ | EOS R5 |

### <レンズ交換式カメラの市場動向>

2019年の世界のカメラ市場におけるレンズ交換式カメラの販売台数は、約880万台となりました。  
(キヤノン調べ)

### <主な製品仕様>

各モデルの製品仕様の詳細は、ホームページをご参照ください。

### <ご参考：「Google One」1カ月トライアル>

「image.canon」を経由して、対象期間中にクラウドストレージサービス「Google One」（メンバーシッププラン）へ新規加入した方に向け、「Google One 100GBプラン」を1カ月間お試しいただけるトライアルをGoogle Oneが提供します。詳細はトライアルが開始する7月下旬以降、「image.canon」のウェブサイトをご参照ください。



- \* Wi-Fi®、Wi-Fi Alliance®、WPA™、WPA2™およびWi-Fi Protected Setup™はWi-Fi Allianceの商標または登録商標です。
- \* Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、キヤノン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- \* IOSは、米国およびその他の国々におけるCisco社の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- \* Android、Google Photos、Google OneはGoogle LLCの商標です。
- \* Adobe、Creative Cloudはそれぞれ、アメリカ合衆国およびその他の国々におけるAdobe（アドビ社）の商標または登録商標です。
- \* その他、記載されている会社名、製品・サービス名は一般に各社の商標または、登録商標です。